

平成 22 年 4 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社プロジェ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 上 野 孝 一
(コード番号：3114 名証・大証第二部)
問合せ先 取締役 社長室長 森 田 宏 文
電話番号 (03) 5777-5152

当社の親会社 ステラ・グループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 古 川 善 健
(コード番号：8206 大証第二部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 10 月 2 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,400	△110	△125	△110	△3円54銭
今 回 修 正 予 想 (B)	2,347	△200	△223	△207	△6円60銭
増 減 額 (B-A)	△53	△90	△98	△97	—
増 減 率 (%)	2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 2 月期)	2,462	△1,140	△1,114	△2,863	△83円66銭

2. 平成 22 年 2 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,000	△90	△90	90	2円90銭
今 回 修 正 予 想 (B)	1,060	△130	△130	54	1円75銭
増 減 額 (B-A)	60	△40	△40	△36	—
増 減 率 (%)	6.0	—	—	△40.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 2 月期)	1,015	△596	△490	△2,558	△74円74銭

(修正の理由)

(1) 【連結】平成22年2月期通期連結業績予想について

当社および当社子会社(以下「当社グループ」という)の主幹事業である不動産事業においては、景気の不透明感や雇用不安による消費マインドの冷え込みが拭い切れない状況下、平成22年2月期通期(以下「当期」といいます。)は、「完成物件の買取り、再販事業」に経営資源を集中的に投下してまいりました。

平成21年4月に買取った物件(埼玉県川口市 マンション22戸)は完売となり、また平成21年11月(一部は平成22年1月)に買取った物件(東京都大田区 マンション19戸)のうち9戸が販売・引渡しとなりました。さらに平成22年1月には新たに1物件(東京都荒川区 マンション11戸)を買取り、現在販売中であり、売上については概ね計画通りに推移いたしました。

しかしながら、100%子会社であった株式会社グローバルコーポレーション(平成21年12月24日付にて解散。現在特別清算手続中。)から引き継いだ販売用不動産(福岡市中央区)について、評価額について保守的に見直した結果、約58百万円のたな卸資産評価損を売上原価に計上いたしました。

また、繊維事業を行う株式会社ドーコーボウにおいても、同様に個人消費の低迷による需要不振の影響を受け、売上・利益ともに厳しい状況が続きました。例年下半期に受注が増加するレギュラー品の見込み生産品が、春夏素材の需要不振で思うように伸びず、テキスタイル、アパレル部門も苦戦いたしました。

一方、経営コストの圧縮については、人員削減、本社事務所の移転など大幅な削減を行った結果、当期における販売費及び一般管理費は、前年同期比1/2以下(約4億62百万円減少)と一定の効果をあげることができましたが、繊維事業における売上及び収益の減少、販売用不動産の評価損等を吸収するまでには至りませんでした。

これらの結果、当期に置ける売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、1株当たり当期純利益は計画を下回る見込みとなりましたので、上記のとおり、計画を修正いたします。

(2) 【個別】平成22年2月期通期個別業績予想について

当期につきましては、上記記載のとおり、「完成物件の買取り、再販事業」はほぼ計画通りの進捗となりましたが、販売用不動産の評価損約58百万円を売上原価に計上したため、営業利益、経常利益、当期純利益、1株当たり当期純利益は計画を下回る見込みとなりましたので、上記のとおり、計画を修正いたします。

(注) 上記の予想につきましては、本資料の発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上